

令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

「BPSDの予防・軽減を目的とした認知症ケア モデルの普及促進に関する調査研究」 調査協力のご相談

認知症介護研究・研修東京センター

1

■「BPSDの予防・軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究」の方向性(案)

1. 尊厳を保持し個別性を重視したその人らしい暮らしを支えるケア(BPSDの予防)

- 尊厳を保持し個別性を重視したその人らしい暮らしを支えるケア(手順・要件)の調査
- 作業部会を開催し、「尊厳を保持し個別性を重視したその人らしい暮らしを支えるケア」のあり方について好事例等を収集(1施設2名の認知症の人、計10名の認知症の人)
- BPSD予防に寄与したであろうケアについてインタビューを実施

2. BPSDを軽減し、再発を防止するケア(BPSDの軽減)

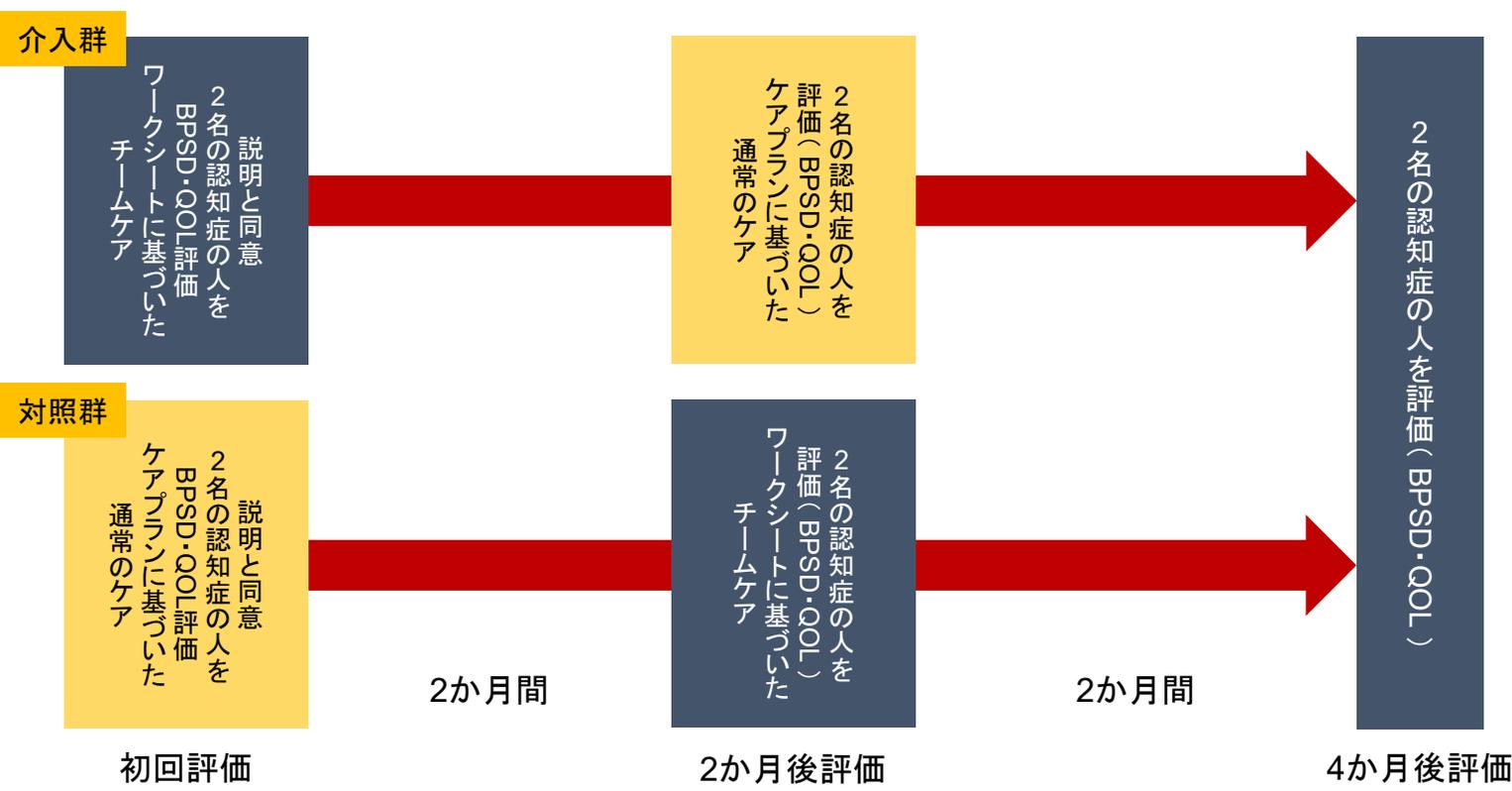
- BPSDを軽減し、再発を防止するケア(手順・要件)の効果検証
- ケアの手順・要件に準じたケアを行う介入群(1施設2名の認知症の人、計100名の認知症の人)と通常ケアを行う対照群(1施設2名の認知症の人、計100名の認知症の人)のランダム化比較試験を実施
- 対照群はランダム化比較試験終了後、ケアの手順・要件に準じたケアを実施

■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の目的について

- ①BPSDの客観的評価
 - ②全人的アセスメント
 - ③Plan-Do-Check-Act (PDCA)サイクルで検証を繰り返す
チームアプローチ
- ①-③をワークシート(案)(スライド5参照)を用いながら行うことで
BPSDが軽減するか検証することを目的としている

3

■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」にかかる調査の概要について



4

「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の方法について

年齢: 歳	性別: 男/女	入院日: 年 月 日	チームメンバー: 計 名
認知症の原因疾患: アルツハイマー型・レビー小体型	前診断医師: 名前	看護師: 名	介護士: 名
現病状: ()	介護スタッフ: 名	理学療法士: 名	作業療法士: 名
	その他: ()		

評価日	評価者	No.	本人の声 (チェックリストを聞いてインタビュー)	評価者	普段の言動や行動

ワークシート(案)

健康状態・身体的ニーズ <input type="checkbox"/> 栄養状態が不足 <input type="checkbox"/> 水分摂取量が不足 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 身体の不満 <input type="checkbox"/> 認知機能 <input type="checkbox"/> 感情の不安 <input type="checkbox"/> その他 ()	その他の要因 (活動・参加・個人要因など) <input type="checkbox"/> 生きがい <input type="checkbox"/> 役割 <input type="checkbox"/> 外出 <input type="checkbox"/> 経済状況 <input type="checkbox"/> 宗教
認知機能 <input type="checkbox"/> ドネビル (アジセプト系) <input type="checkbox"/> ガンタミン (レネニール系) <input type="checkbox"/> リリスタグミン (リリスタグミン) <input type="checkbox"/> パロチン/イクソロン(パッチ系) <input type="checkbox"/> スピロピリン (スピロピリン) <input type="checkbox"/> 自律神経 (自律神経系、不安定感、睡眠障害)	環境 <input type="checkbox"/> 周囲の音が騒がしい <input type="checkbox"/> 周囲が忙しすぎる <input type="checkbox"/> 暑い、寒い <input type="checkbox"/> なじみの場所 <input type="checkbox"/> なじみの関係 <input type="checkbox"/> その他 ()

目標 1. 2.	目標達成を目指すにあたって本人ができること 1. 2.	目標達成を目指すにあたって本人ができないこと 1. 2.
ケア計画 1. 2.		

研究デザイン: ランダム化比較試験

(介入群: 要件・手順に基づいた介入、対照群: 通常ケア)

対象施設: 老健、特養、GH (1施設につき、2名の認知症)

対象者の選定基準: 取り込み基準は、1) 認知症の診断を受けている者 (鑑別診断の必要なし)、2) BPSD+Qにて重症度得点が3点以上の項目がある者、のすべてを満たす者。除外基準は、1) 障害高齢者の日常生活自立度C以上の者、2) 会話不能な者 (氏名の回答不可)、3) 経管栄養の者、のいずれかに当てはまる者

対象者数: 各群50施設、計100名の認知症の人

介入期間: 10・11月の2か月間

介入方法: 介入群はチームでワークシートを用いてアセスメントやケア計画立案し、ケアを実施、ワークシートの使い方に関しては研修を実施

アウトカム: BPSD+Q、Short QOL-D

解析: 二元配置分散分析

令和3年度にBPSDケアプログラムモデル事業に参加していない施設・事業所が望ましいと考えておりますが、難しい場合は、アドミニレーター以外の方に研究の担当ををお願いしたく存じます。

「その人らしい暮らし」について本人に聴き取る項目(案)

例示

・本人の意思の尊重のもと、本人の能力に応じ、選択肢を提示するなどの工夫をしながら、本人 (又は家族等) に尋ねるとともに、その人の暮らしを観察しながら情報収集し、ニーズを見極めた上で、その人らしい暮らしを実現するチームケア (以下「介入」という。) を行うこととしてはどうか。

以下のうちの数個、落ち着いた雰囲気の中で本人に尋ねる

① **どのような暮らしをしたいですか、習慣としてしてきたことで、続けたいことは何ですか？**

個別・具体的な生活習慣、望む暮らし方、個人史

② **あなたがこだわっていることはありますか？**

望む暮らし方、個人史

③ **今、どのようなことをしたいですか？**

本人の望み・ニーズの把握

④ **生活で難しくなっていること、手伝ってほしいことはどのようなことですか？**

生活障害: できないこと、できることの把握

⑤ **誰と仲良く暮らしたいですか？**

人的環境 (関係性): 「なじみの人間関係」スタッフ・家族との関係性と関わり、友人や社会参加

⑥ **どのような環境で暮らしたいですか？**

生活環境: 「なじみの居住空間」(居場所、落ち着ける場所)

⑦ **どのような日課・役割を持ちたいですか？**

役割、日課、生きがい、感謝される機会

■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の方法について(アンケート)

対象

- ケア要件に基づいたケア介入を実施した職員、計100-200名

方法

- ケア要件に基づいたケア介入終了後に自記式アンケートを実施する
- アンケートのタイミングは、ケア要件に基づいたケア介入終了直後とする

内容

- アンケートの内容は「回答者の基本情報(年齢、職種、介護経験年数、役職等)」とケア手順・要件に関するアンケートとする

BPSDの客観的評価について

BPSDを評価することは、日常のケアで役立つか、「1:そう思わない」～「5:そう思う」で回答

BPSDを評価することは、BPSDの軽減・再発防止に役立つか、「1:そう思わない」～「5:そう思う」で回答

アセスメント項目(「その人らしい暮らし」について本人に聴き取る項目)について

- 1) 項目●は、1回で的確にアセスメントすることは可能か
 - 2) 項目●は、アセスメントを負担なく行えたか
 - 3) 項目●は、誰であってもアセスメントすることは可能か
 - 4) 項目●は、対象者と言語でのコミュニケーションが行えない場合であっても、アセスメントすることは可能か
 - 5) ケアプランを立案・実行するにあたって最も重要なアセスメント項目はどれか
 - 6) アセスメントを行うにあたって、聞き方やタイミング、環境などの工夫について
- 1)-4)は「1:そう思わない」～「5:そう思う」で回答、5)はアセスメント項目から1つを選ぶ、6)は自由記述で回答

PDCAサイクルによるチームアプローチ

PDCAサイクルによるチームアプローチは、日常のケアに役立つか、「1:そう思わない」～「5:そう思う」で回答

PDCAサイクルによるチームアプローチは、BPSDの軽減・再発防止に役立つか、「1:そう思わない」～「5:そう思う」で回答

■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の調査項目とメリット・デメリット

調査項目

1. 認知症の人の基本情報
2. BPSD・QOL評価(3回)
3. ワークシート(案)
4. 職員のアンケート

メリット

- ケアの実施状況の振り返りが可能
- 職員が同じ視点でケアができる
- 認知症ケアの質向上のきっかけ
- 認知症の人1名に対して、施設に14,000円の謝金贈呈

デメリット

- 検討・記録の時間を含めて合計90分程度を要する

- 問い合わせ先

認知症介護研究・研修東京センター 担当: 中村・月井

rouken@dcnet.gr.jp

TEL: 03-6743-2165